ぺれにある

1995年5月　　No. 6
北海道立天北農業試験場
〒098-57 枝幸郡浜頓別町緑ヶ丘
TEL 01634-2-2111
FAX 01634-2-4686

１番草を適期に収穫

牧草の栄養価は生育ステージが進むにつれて低下します。チモシー（品種：ノサップ）を例にとると、１番草のＴＤＮ（可消化養分総量）含有率は、６月から７月にかけて急速に低下します。　（図１）。

しかし、生育ステージが早い段階では、栄養価が高くとも収量が不足します。そこで１番草の刈取りは、栄養価と収量のバランスを考慮し、出穂期までに終えたいものです。

現在、北海道奨励品種・準奨励品種はチモシーが１２品種、オーチャードグラスが１１品種あり、それぞれ熟期や特性が異なっています。この組合わせによって、最大１ヵ月程度の適期刈り期間が確保できます。しかし、現状では両草種とも早生品種に偏っており、加えて、草種構成や早晩性を改善する草地更新も停滞しています。

このような背景のもとに「１番草の適期刈取り運動」は良質粗飼料を生産するための最も取組み易い改善策として進められてきました。しかし、現場における収穫作業は、まだ遅れています。（図２）。

宗谷管内の１番草の収穫作業能率は１日平均刈取り面積が１，０００ｈａ程度で、６月における作業可能日数率（雨が降らない日数の割合）６５％（浜頓別町：最近５ヵ年平均）となっています。

このため、「鎌入れ」を少しでも早めることが１番草の適期刈取率を高め、粗飼料の栄養価を向上するために重要です。

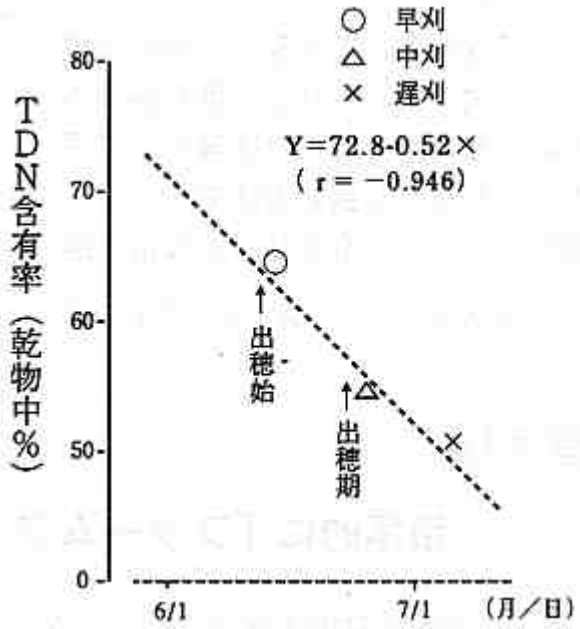


図１　チモシー１番草の刈取り時期とＴＤＮ含有率の関係（天北農試　1995年）

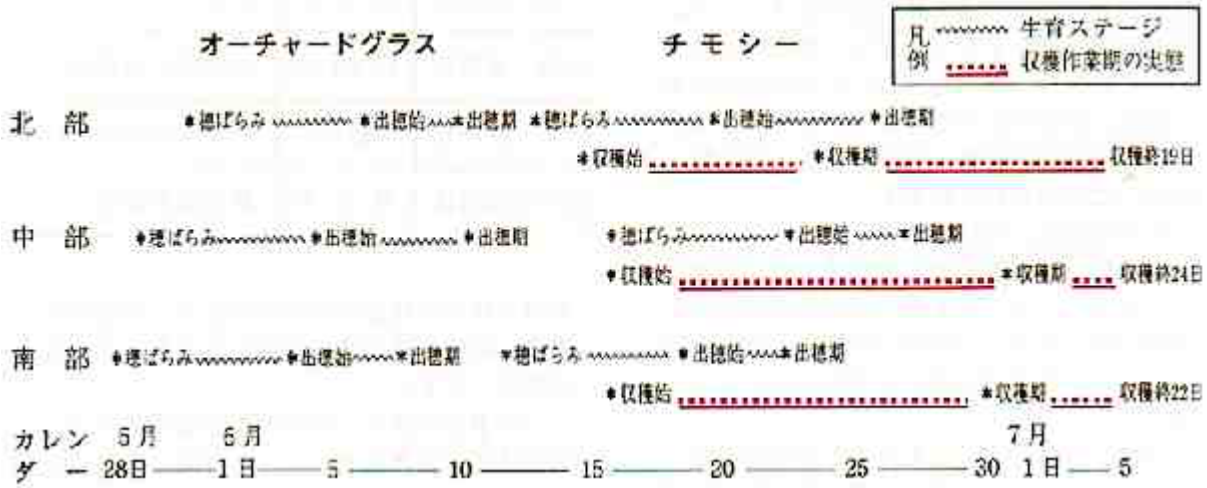


図２　宗谷管内における１番草生育ステージと収穫作業期の実態
（地区農業改良普及センター調査平均値　1994年）

屋敷・畜舎周辺の整備計画

天北酪農は、畑作経営からの転換以来、生産基盤の拡大に向けて努力してきましたが、生活と生産の場である農場づくりは十分とはいえない状況にあります。

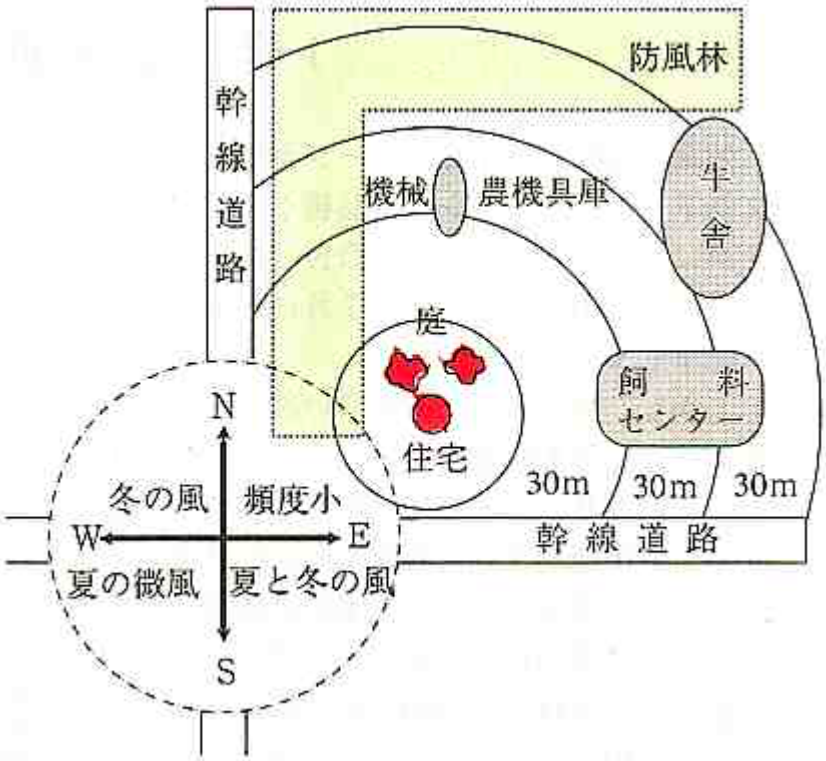
この対応策は、「農場環境づくり」の計画から始まりますが、下の図に農場が幹線道路の北側に位置した例を示しました。その配置を見ると、防風林で北風を防ぎ、居住スペースを幹線道路に近く、これを中心として同心円上に一定の距離をおいて、機械・農機具庫、飼料センター、牛舎等があります。

酪農経営では、施設の種類・数も多く、その配置を誤るとゆとりある生活や農作業効率に悪影響を及ぼし、その修正には多くの費用を要します。

計画を立てる場合、まず多くの事例を視察すること、次いで、それを幾度も繰り返し検討することです。この対応策として平面図を書いてみるのも良い方法です。

この展開はクリーン＆グリーンな宗谷酪農郷づくりの第一歩であり、家族全員の話し合いで夢を膨らませたいものです。

農場が北側に面している場合



（ＭＷＰＳ－６・第４版　肉牛施設・設備ハンドブック　デーリイマン社　1989年）

専技室より

積極的に「ファームアドバイザー」を活用しょう

北海道では、平成６年度よりファームアドバイザー活動推進事業を実施しています。

この事業は、全道で実践的・先駆的な農業経営を行っている指導農業士等を「ファームアドバイザー」として登録し、農家の多様なニーズに対し、直接対応してくれるものです。

氏　　名	市町村	経営内容
白田健次氏	豊富町	酪農・畑作複合
石黒義雄氏	稚内市	高能力牛の管理
市橋善幸氏	中頓別町	大規模な酪農
秋川与四男氏	歌登町	肥育素牛育成

現在、全道で８７名のアドバイザーが４分野（実践的経営管理・先駆的技術・法人化・環境）に登録されています。

その事業は、研修者がアドバイザーに出向いて研修（研修希望者の旅費は、自己負担）する場合と、アドバイザーが現地に出向いて指導（道よりアドバイザーに謝金と旅費が支給される）を受ける２タイプからなっています。

管内においても、４人の方々が登録されており、全地域で活用でき、実体験に基づくアドバイザーの経営に対する考え方、理念など、圃場、機械、施設等を活用した実際的な指導が期待できます。

この事業の詳しい内容や研修依頼などは、地区農業改良普及センターへお問い合せ下さい。